

## 医師会とともに — 地域医療の未来 —

空知南部医師会 理事  
とくち内科胃腸科ファミリークリニック 院長  
久野和成

当空知南部医師会は今年度より一般社団法人への移行が認可された。道程は大変だったが会長、事務局局長らの尽力により滞りなく移行できたことに安堵している。

わが医師会は現在栗山、長沼、南幌、由仁町の4町の医師総勢40名余りの会員で構成されている。小生が思う当医師会は、全員のお互いの顔が見えるような距離感がちょうどよいサイズの組織という印象である。先日催された定時会員総会の後も半数近くの会員が懇親会に参加し、仕事をしばし忘れたがのごとくさまざまな話題、音楽の話、野球、バイク、しまいにはサブカルチャーの権化であるガンダムの話題まで（ちなみにガンダムで盛り上がっていたのは小生の周りだけでしたが…）盛り上がりのうちに散会となった。総会後の懇親会と新年会の年2回しか一同で杯を酌み交わす機会はないものの、こういう場の親近感が横のつながりを生み、診療連携をスムーズにしていくのであろうという考えはもはや古い考えなのであろうか。まあ郡市医師会ならではのものではあると思うのだが。

さて今回の執筆にあたり2011年の熊熊通信に「地域医療の混迷」と題して当時の栗山町における医療の窮状を書きつづったものを読み返してみた。当時の文章からはこれから医療状況がどうなっていくのか（どう悪化していくのか）に対しての大きな不安がひしひしと伝わってきた。幸いこの2年の間に栗山町行政と栗山赤十字病院の懸命の努力により人材の確保ができ、初期救急を含め医療状況は若干の明るい徴候は見えている。町民も夜間救急に関してもやや安堵感を強めている印象である。現在は包括的ケアシステムの構築も含め、さらなる検討がなされている。

人と人とのつながりが大切な局面での医師会の果たすべき役割は大きいと考える。医師会員間のネットワークを密にして、この地域の医療にともって来たまだ小さな明るい灯を大きな光に変えてゆけるように努力していきたい。

地域医療に明るい未来があることを期待して…

## 医師会活動

岩内古宇郡医師会 理事  
いわない眼科クリニック 院長  
寺山 亜希子

当会は、神恵内村、泊村、共和町、岩内町にある1介護老人保健施設、14診療所、1病院の医療機関で働く25名の医師から成り立っています。現在は平成23年4月から会長となられた石山直志先生のもとさまざまな活動を行っています。理事会、定例会（会員が出席）をそれぞれ月1回、講演会は不定期ですが、平成24年度は5回行いました。また、ほかには、手稲溪仁会救命救急センター長よりドクターヘリ要請説明会や道医師会長や道副知事が出席された地域別意見交換会なども行われました。

理事会では定例会前に決めておく案件を話し合うことが主になります。先日の理事会では、石山会長が掲げられた「岩宇地区における認知患者の医療ネットワークの構築について」の話し合いが始まりました。岩内協会病院に勤務する神経内科医の指原先生から、岩宇地区においては、認知症が進行してしまい生活ができなくなって、協会病院に救急車で搬入されるケースが多いとのことでした。

認知症は早期に治療を開始すると進行を遅らせることができるので、開業医の先生たちにはまず、1) できるだけ早く治療のきっかけを作ってもらうこと、2) 診断・治療に迷い、治療が遅れないように専門医に相談すること、3) 臨床心理士がいると認知症の診療は行いやすいことなどお話がありました。医師のみで認知症の診断、治療をしても不完全で、行政との協力などもあわせてまだまだこれから実現にむけて話し合いが必要と考えています。

「北海道医師会と各々の医師会のコミュニケーションを円滑にするために熊熊通信に執筆を」とのことですが、私は、今のところ、道医師会とは北海道医報を読んで初めてつながり、決まったことを読むだけの一方通行です。コミュニケーションを円滑にするために何かよい方法はあるでしょうか。